

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-363157
(P2002-363157A)

(43) 公開日 平成14年12月18日 (2002.12.18)

(51) Int. Cl. ⁷	識別記号	FI	テマコード [*] (参考)
C07D207/16		C07D207/16	4C033
A61K 31/40		A61K 31/40	4C069
	31/426	31/426	4C086
A61P 3/04		A61P 3/04	
	3/08	3/08	

審査請求 有 請求項の数 15 0L (全12頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願 2002-132484 (P2002-132484)
 (22) 出願日 平成 14年5月 8日 (2002.5.8)
 (31) 優先権主張番号 0106375
 (32) 優先日 平成 13年5月 15日 (2001.5.15)
 (33) 優先権主張国 フランス (FR)

(71) 出願人 500287019
 レ ラポラトワール セルヴィエ
 フランス国、エフ-92415 クールベボ
 ワ・セデックス、リュ・カルル・エベ
 ル 1
 (72) 発明者 ギヨーム・ドゥ・ナントウイユ
 フランス国、92150 シュレン、リュ・
 ドゥ・シュマン・ヴェール 12
 (72) 発明者 ベルナール・ポルトヴァン
 フランス国、78990 エランクール、リ
 ュ・フレデリック・パスイ 6
 (74) 代理人 100078662
 弁理士 津国 肇 (外1名)
 最終頁に続く

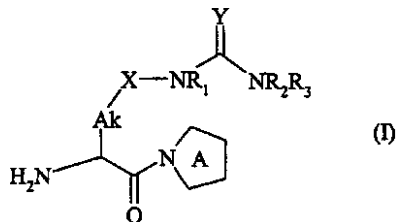
(54) 【発明の名称】 新規 - アミノ酸化合物、その調製方法及びそれを含有する医薬組成物

(57) 【要約】

【課題】 ジベプチジルペプチダーゼ I V 阻害特性を有するため、グルコース不耐性及び高血糖と関する疾患の処置に有用な医薬を提供する。

【解決手段】 式 (I) :

【化 2 6】



(式中、環 A は、場合によりシアノ基で置換されている 5 員窒素含有複素環； Ak は、直鎖状又は分岐鎖状 (C₁ - C₆) アルキレン鎖； X は、単結合など； R₁ 及び R₂ は、それぞれ水素原子など； R₃ は、直鎖状若しくは分岐鎖状 (C₁ - C₆) アルキルなど； Y は、CH - NO₂ などを表す) で示される化合物、存在するその相互異性体、その光学異性体及び薬学的に許容されうる酸とのその付加塩、その合成方法、並びにそれを含む医薬組成物。

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2003-327949
(P2003-327949A)

(43) 公開日 平成15年11月19日 (2003.11.19)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	FI	テマコード [*] (参考)
C09K 3/00	103	C09K 3/00	4C081
// A61L 31/00		A61L 31/00	B

審査請求 有 請求項の数 5 0L (全8頁)

(21) 出願番号 特願 2002-136434 (P2002-136434)
 (22) 出願日 平成 14年5月 13日 (2002.5.13)
 新規性喪失の例外の表示 特許法第30条第1項適用申請有り
 平成14年3月11日 社団法人日本化学会発行の「日本化学会第81春季年会2002年 講演予稿集II」に発表

(71) 出願人 396020800
 科学技術振興事業団
 埼玉県川口市本町4丁目1番8号
 (72) 発明者 浜地 格
 福岡県福岡市早良区昭代2-8-8-504
 (72) 発明者 新海 征治
 福岡県福岡市東区三苫2-13-17
 (72) 発明者 清中 茂樹
 福岡県福岡市博多区吉塚1-29-16パレST
 AGE205
 (74) 代理人 100087675
 弁理士 筒井 知

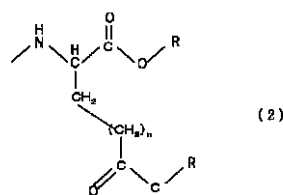
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 グリコシドアミノ酸誘導体から成るヒドロゲル化剤およびヒドロゲル

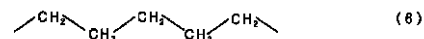
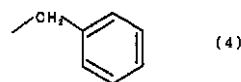
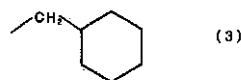
(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 ポリマー由来のゲルとは異なり低分子から構成され生分解性や生体適合性を有する機能性ゲルを提供する。

【解決手段】 式(1)で表わされるグリコシドアミノ酸誘導体から成るヒドロゲル化剤、および該ゲル化剤が水性液を含有して構成されるヒドロゲル。式(1)中、S GはN-アセチル化された単糖類または二糖類のグリコシド構造を有する糖構造部位を表わし、A Aは下記の式(2)で示されるアミノ酸構造部位を表わし、Lは前記糖構造部位とアミノ酸構造部位とを連結し、水素結合性の官能基または原子団を有するリンカー部位を表わす。式(2)中、Rはヘキシルメチルのような炭化水素基を表わす。温度変化に応じて可逆的に膨潤・収縮する感温性ゲルと成る。



【式(2)中、nは1または2であり、Rは下記の式(3)~(6)のいずれかで示される炭化水素基を表わす。】



(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2003-334039

(P2003-334039A)

(43) 公開日 平成15年11月25日(2003.11.25)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	FI		テマコード [*] (参考)	
A23L	1/328	A23L	1/328	A	4B035
	1/00		1/00	C	4B042
				D	

審査請求 未請求 請求項の数 7 書面 (全6頁)

(21) 出願番号 特願 2002-179218(P2002-179218)
 (22) 出願日 平成 14年5月 16日(2002.5.16)

(71) 出願人 501018634
 財団法人上田繊維科学振興会
 長野県上田市常田3丁目8番37号
 (71) 出願人 599021479
 山本 浩之
 長野県上田市常田3丁目15番1号 信州
 大学繊維学部高分子工業研究施設内
 (72) 発明者 山本 浩之
 長野県上田市常田3丁目15番1号 信州
 大学繊維学部附属高分子工業研究施設
 内

最終頁に続く

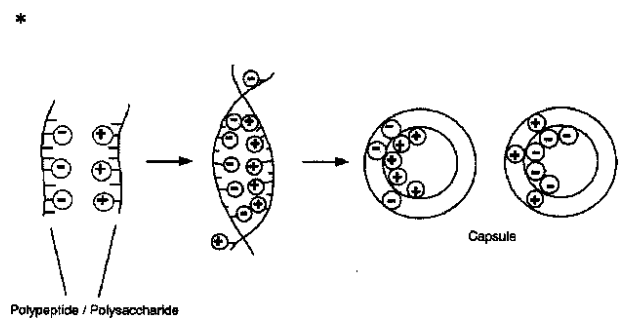
(54) 【発明の名称】天然多糖およびポリアミノ酸からなるカプセル・ビーズ状組成物および人工魚卵

(57) 【要約】

【目的】本発明は、水溶性高分子素材、特に天然多糖および合成ポリアミノ酸水溶液からカプセルおよびビーズを製造するため高分子組成および連続製造装置、および、応用例としての人工魚卵製造技術とその装置を提供することを目的とする。

【構成】特に天然多糖および合成ポリアミノ酸を含むカチオン性高分子電解質およびアニオン性高分子電解質、およびそれらの水溶液の使用を特徴とするカプセルおよびビーズ状組成物。送液ポンプおよび界面反応槽から構成される連続製造装置。カプセルおよびビーズ状組成物からの人工魚卵の製造技術とその装置。

【効果】互いに反対電荷を有する2つの高分子電解質水溶液の混合界面における自発的な高分子電解質複合体形成を利用することにより、2種の高分子電解質水溶液からカプセルおよびビーズ状組成物を製造することができる。さらに、得られた組成物から人工魚卵を製造することができる。



(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-210746

(43) 公開日 平成16年7月29日(2004.7.29)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	FI	テームト [*] (参考)
C07C253/00		C07C253/00	4H006
C07C255/24		C07C255/24	

請求項の数 3 審査請求 未請求 0L (全9頁)

(21) 出願番号 2003002506
(22) 出願日 平成15年1月8日(2003.1.8)

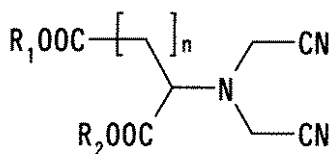
(71) 出願人 000006035
三菱レイヨン株式会社
東京都港区港南一丁目6番41号
(72) 発明者 田村 鋼二
広島県大竹市御幸町20番1号 三菱レイ
ヨン株式会社中央技術研究所内
Fターム(参考)
4H006 AA02 AC54 AC81 BC31 BE06
QN00

(54) 【発明の名称】 アミノ酸アルカリ塩 - N、N - ジアセトニトリル類の製造方法

(57) 【要約】

【課題】 高収率でアミノ酸アルカリ塩 - N、N - ジアセトニトリル類を製造する方法を提供する。

【解決手段】 アスパラギン酸またはグルタミン酸から選ばれたアミノ酸類をカリウムまたはリチウムのいずれかを含むアルカリ性化合物でアルカリ塩とした後に、ホルマリンとシアン化水素を作用して一般式



(式中、R₁ と R₂ は、水素原子、カリウム原子またはリチウム原子のいずれかを表し、n は 1 から 2 の正数を表す。ただし、R₁ と R₂ は同時に水素原子である事はない。) で示されるアミノ酸アルカリ塩 - N、N - ジアセトニトリル類を製造する際に、アミノ酸類

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-224718

(43) 公開日 平成16年8月12日(2004.8.12)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	FI	テマコード [*] (参考)
C07C227/18		C07C227/18	4C037
C07C229/14		C07C229/14	4C055
C07D213/36		C07D213/36	4H006
C07D307/52		C07D307/52	4H039
// C07B 61/00		C07B 61/00 300	

請求項の数 3 審査請求 未請求 0L (全14頁)

(21) 出願番号	2003013285	(71) 出願人	000000206 宇部興産株式会社
(22) 出願日	平成15年1月22日(2003.1.22)		山口県宇部市大字小串1978番地の96
		(72) 発明者	宮田 博之 山口県宇部市大字小串1978番地の5 宇部興産株式会
			社宇部研究所内
		(72) 発明者	山本 康仁 山口県宇部市大字小串1978番地の5 宇部興産株式会
			社宇部研究所内
		(72) 発明者	坂田 一馬 山口県宇部市大字小串1978番地の5 宇部興産株式会
			社宇部研究所内

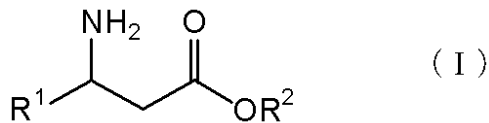
(54) 【発明の名称】 N - 置換 - - アミノ酸エステルの製造方法

最終頁に続く

(57) 【要約】

【課題】 本発明は、一般式 (I)

【化 1】



(式中、 R^1 は、置換基を有していても良いアリール基、 R^2 は、置換基を有していても良いアルキル基を示す。)

で示される - アミノ酸エステル類と一般式 (I I)

【化 2】



(式中、 R^3 は、置換基を有していても良いアリール基を示す。)

で示されるアルデヒド類から、簡便な方法によって、高収率で一般式 (I I I)

【化 3】